

NETIS No.HK-030037

情報ボックスにおける異種管接続用継手
情報ボックス用異種管継手

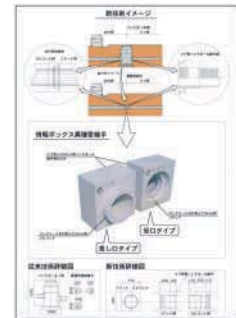
一般的に光ファイバーケーブルの情報ボックス工事用保護管路は、プラスチック管とコンクリート管を埋設条件、経済性を判断し使い分けています。しかし、プラスチック管とコンクリート管の接合箇所には大型のハンドホールを設置しているため施工性、経済性を低下させています。本製品は異種管接続のためのハンドホールにかわり、従来技術と同様の機能を有しながら、大幅なトータルコストの縮減、施工性の向上に貢献するものです。

■問い合わせ先

株式会社旭ダンケ

木原 新(担当) TEL.0166(57)2011

(事業区分:活用パイロット)



■情報ボックス異種管継手



■従来技術と新技術の比較

Topics

第48回(平成16年度)
北海道開発局技術研究発表会

が2月23～24日に札幌コンベンションセンターで開催されました。



特別講演では、日本生態系協会の池谷奉文会長が「世界の環境 日本の環境～美しく自立する地域の創造」と題し、300名を超える聴講者へ自然生態系の保全・回復の重要性を訴えかけ、公共事業の新たな方向性を示唆しておりました。

自由課題研究発表では、従前の事業部門ごとの発表形式をやめ、今回初の試みとして「環境」、「コスト」、「安全」、「ふゆ」、「参加」、「地域協働プロジェクト」、「技術一般」という事業横断的なテーマ別の発表に変更し、会場数も増やして開催しました。過去最高の212件の研究論文が発表され、聴講者からの熱心な質問も多数あり、事業部門を越えた技術交流がなされたものと思われまます。

各発表論文は、北海道開発局ホームページにて公開されております。

なお、北海道開発局長賞受賞論文も近日中に掲載いたします。

URL:<http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/gijyutu/index.html>

編集後記

お届け致しました「Hint!」第2号はいかがでしたでしょうか。今回の特集では、技術活用システムの中核をなすデータベースシステム“NETIS”について紹介させて頂きました。“NETIS”には全国の開発者から登録があった技術が満載されています。現場条件などで困ったら是非一度ご覧になって下さい。

また、この4月からは、新技術のさらなる活用促進を図るために、産学官の連携を強化し、新たな「公共工事等における技術活用システム」として再編・強化します。

「Hint!」では新システムの中核となる「評価試行方式」の内容や北海道で開発された技術について、今後も皆様に分かり易くお伝えできるよう取り組んでいきますので、次号もご期待下さい。

北の技術情報誌

Hint!

Hokkaido Information of Technology

第2号

2005.Mar

■編集・発行

北海道開発局 事業振興部
防災・技術センター 技術課

〒062-8511

札幌市豊平区月寒東2条8丁目3-1

Tel: 011-851-4270 Fax: 011-851-7806

■HomePage

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_jigyoku/bosai/index.htm

北の技術情報誌

Hint!

Vol.2